

実用新案公報

昭53-15529

⑤Int. Cl.²

識別記号

⑤日本分類

庁内整理番号

④公告 昭和53年(1978)4月24日

A 47 C 1 / 026

126 B 411.4

6634 — 26

(全3頁)

④座席用リクライニング装置

①実 願 昭47-56954

②出 願 昭47(1972)5月15日

公 開 昭49-16205

③昭49(1974)2月12日

⑦考 案 者 河村光直

岐阜県本巣郡本巣町山口537の

⑧出 願 人 株式会社今仙電機製作所

大山市太字桑田字柿畑1

⑥実用新案登録請求の範囲

バックシート側ブラケット1に、係止歯17、18を有するセクター19、20を軸2に関して対称に固定し、座席側ブラケット3には前記係止歯17、18に嚙合する係止歯21、22を有するロックプレート23、24を摺嵌した案内板25を固定して、バックシート側ブラケット1及び座席側ブラケット3を軸2のまわりに回動自在に軸着し、更にロックプレート23、24に植設したピン28、29を、軸2に嵌まつて回動するコントロールプレート13のカム孔11、12に嵌めると共にコントロールプレート13に押圧片32を固定したことを特徴とする座席用リクライニング装置。

本装置の詳細な説明

本装置は自動車座席用リクライニング装置に於ける傾斜角度調整機構の強化改良に関するものである。

従来の自動車座席用リクライニング装置の傾斜角度調整機構は、バックシート側ブラケットに設けた1個のセクターの係止歯に座席側ブラケットに設けたロックプレートの係止歯に係合させることによりバックシートを適当な角度で固定するものであったが、本装置はバックシート側ブラケットに2個のセクターを設け、それ等の各々に対し

て各1個のロックプレートを設けることによつて傾斜角度調整機構を強化するものである。

本装置を図面に基づいて詳細に説明する。

始めに構成を説明すると、1はバックシート側ブラケットで軸2により座席側ブラケット3に回動自在に枢着されている。

4は操作板で連結軸5を支点にしてハンドル6を上下させて座席とバックシートの開角度を調整する。

軸2は、一端を座席側ブラケット3の嵌合孔7に回転しないように嵌挿すると共に中央部にはバックシート側ブラケット1が回動可能に嵌挿しており、他端には渦巻バネ8の一端に係止する切欠溝9が設けられている。

渦巻バネ8の他端はバックシート側ブラケット1に固設された係止片10に係止されており、バックシートに前方向傾動力を与えている。

又、軸2には、内側にカム作用をするカム孔11、12を穿設したコントロールプレート13が回動可能に嵌合されており、その突起部14に植装されたピン15を操作板4に穿設された長孔16に係合させてある。

一方、バックシート側ブラケット1には内側に係止歯17、18を形成したセクター19、20が固定されており、他方係止歯17、18に嚙合する先端に係合歯21、22を有した矩形状のロックプレート23、24を座席側ブラケット3上に設けた案内板25の案内部26、27の間に摺動できるように嵌め、更にロックプレート23、24の摺動はロックプレート23、24に植設したピン28、29をコントロールプレート13に穿つたカム孔11、12に遊嵌し、カム孔11、12の移動によりカム面30、31がピン28、29を押圧し案内板25の案内部26、27に沿つてロックプレート23、24を移動させてセクター19、20の係止歯17、18との嚙合を解除するもので、係合を解除することによつてバック

クシート側ブラケット1は軸2のまわりに自由に回転出来る構造となつてゐる。32はコントロールプレート13に固定されて軸2のまわりに回転する押圧片で、ロック状態時にロックプレート23、24を背後より押圧しセクター19、20との係合を確実に行はしている。33は操作板4を復帰させるためのコイルスプリングである。

次に作用を説明してその作用を述べる。

ハンドル6を上方に移動させると、操作板4の長孔16及びコントロールプレート13に植設されたピン15の係合によりコントロールプレート13は軸2のまわりに回転し、カム孔11、12のカム面30、31はロックプレート23、24に植設されたピン28、29に当接すると同時に、それまでロックプレート23、24を背後から押圧していた押圧片32はロックプレート23、24からはなれる。

従つてロックプレート23、24は案内板25の案内部26、27に沿つて軸2の方向に摺動し、セクター19、20の係止歯17、18はロックプレート23、24の係止歯21、22より解除されるので、バックシート側ブラケット1は軸2のまわりに回転自在となる。

適当な位置にてハンドル6より手をはなせばコイルスプリング33の復帰力によつて、コントロールプレート13が回転しカム面30、31がピン28、29より離れると同時にコントロールプレート13に固定された押圧片32がロックプレート23、24を背後から押圧してセクター19、20の係止歯17、18とロックプレート23、24の係止歯21、22を噛合させるためバックシート側ブラケット1は軸2のまわりに回転不可能となる。

続いて、バックシート側ブラケット1に外力が加わつた場合について説明する。

バックシート側ブラケット1に加わつた力は、セクター19、20とロックプレート23、24との噛合によりロックプレート23、24に伝え

られる。このため、ロックプレート23、24には軸2を中心とする回転分力および軸2に向う中心分力が作用する。ところが、ロックプレート23、24に作用する回転分力はロックプレート23、24が摺動する案内板25に加わり、またロックプレート23とロックプレート24とに発生する中心分力とは反対方向の力であり、かつ、共に押圧片32に加わつて相殺される。

以上の説明より明らかな如く、本考案の装置においては軸2に関して対象に2個の係止機構が設けられ、かつ、押圧片25によつて案内板25の案内部26、27内を摺動するロックプレート23、24を押圧するように構成されているため、従来公知な1個の係止機構の装置と比べて単に強度が2倍となるのみではなく、軸2、ロックプレート23、24等に何ら無理な力が作用することがなく、装置全体の強度を向上させると共に構成を簡単とすることができる。

図面の簡単な説明

第1図……本考案になる座席用リクライニング装置の一実施例を示す一部断面正面図。第2図……第1図に於けるA-A断面図。

1……バックシート側ブラケット、2……軸、3……座席側ブラケット、4……操作板、5……連結軸、6……ハンドル、7……嵌合孔、8……渦巻バネ、9……切欠部、10……係止片、11、12……カム孔、13……コントロールプレート、14……突起部、15……ピン、16……長孔、17、18……係止歯、19、20……セクター、21、22……係止歯、23、24……ロックプレート、25……案内板、26、27……案内部、28、29……ピン、30、31……カム面、32……押圧片、33……コイルスプリング。

引用文献

実 公 昭47-1388

図1

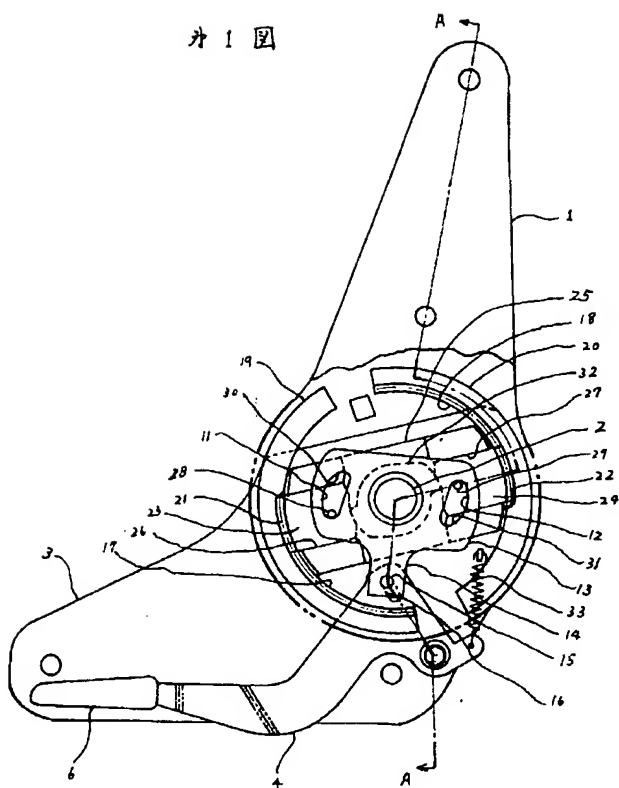


図2

